

* この夏の校外でのチャレンジを紹介します。

APU立命館アジア太平洋大学 BEGIN Program 2019 参加報告

大分県の立命館アジア太平洋大で(APU)で行われたグローバル人材育成プログラム、BEGIN Program 2019に参加してきました。日本全国、あるいは海外から集まった高校生とAPUの国内学生・国際学生からなるスタッフさん達と共に充実した四日間を過ごしました。プログラム中はあらかじめ分けられたグループで活動します。そのグループで計7つのミッションを行い、最後のミッションでは提案型プロジェクトの作成・プレゼンを行いました。プログラム前半は、より良いグループディスカッションの方法、問題発見・解決方法、プレゼンテーションのスキルといった内容を中心に、グループワークを通して体験的に学びました。後半はこのプログラムの山場である提案型プロジェクトの作成、プレゼンの準備をグループの仲間と共に切磋琢磨しながら行いました。

私はこのプログラムで学んだことは数多くありますが、中でもディスカッションの最中に何度も大切だと思ったのは「話しやすい雰囲気を作ること」です。それはその場にいる一人一人が自分の意見を持ち、積極的に発信する主体性と、相手の目を見て聞いたり誰かの発言に対して何かしらのアクションを起こすといった他者への姿勢を持つことです。誰か一人が発言をし続けるのではなく、みんなが等しく意見を言う。聞いているのか聞いていないかわからないような反応をするのではなく、相槌や言葉で反応する。これこそがより良いディスカッションに繋がると感じました。もちろんそれ以外にもファシリテーターやタイムキーパーを事前に決めておくことも欠かせません。

また、「振り返りの大切さ」も学びました。このプログラムではミッションごとに振り返りや周りの人からのフィードバックがありました。フィードバックとは自分の発表などに対するよかった良かった点などのアドバイスです。こういったことを事あるごとにやったので、「今自分はこのアクティビティから何を学んだのか」「次にどんなところを気をつけて発表すればいいのか」などを、すぐにまとめることができ、このことにより自分の成長を実感したり、逆に頑張らなければならないところも主観的な点と客観的な点から明白にすることができました。これは今後の学校生活でも大いに活かせると思います。

この四日間プログラムとはまた別のところで多くの刺激を受けました。まずAPUにいったからこそ経験できる多くの国際学生との交流です。語学学習がプログラムの目的でなかったのと国際学生スタッフさんのほとんどが日本語がお上手なこともあり、英語での会話をする機会は少なかったですが、いろいろな国の文化に触れる機会はありました。また、全国の同年代の子たちと四日間を共にする機会は初めてだったので、話しているうちにたくさんのお話を聞いてそれをもっと楽しかったです。様々な経験談を聞いたのもこのプログラムに参加したからこそできたことだと思います。

そして私のグループが提案したプロジェクトの目的が「高校生が自分とは異なるセクシャリティを持つ人への理解を深め、その人の立場に立って物事を考えられる人材になる」だったので、セクシャリティについても学ぶ機会となりました。世界には様々なセクシャリティを持つ人がいて自分もその中の一人であることにも気づかされました。



この四日間はとても濃くて、楽しくて、結構ハードな時間でした。それでも学べたことは多く、自分の成長につながったと感じています。参加して良かったと心から思います。 (1-7. 40 山崎 美和子)